

【6月・1歳児・高月齢】

ほいくのおまもりプラス

	Aさん(高月齢/男児/活発) (2歳2カ月/4月生まれ)	Bさん(高月齢/女児/活発) (2歳1カ月/5月生まれ)	Cさん(高月齢/男児/静か) (2歳0カ月/6月生まれ)	Dさん(高月齢/女児/静か) (1歳11カ月/7月生まれ)
子どもの姿	1. 排泄や着替えの際に自分でズボンを履こうとする意欲が見られ、前後が反対になったり、お尻の部分が上がりきらなくても気にせず、「できた」と保育者に伝えていた。 2. 友だちが使っている玩具に興味を示し、黙って取ってしまうことでトラブルになることがあった。 3. 思い通りにいかない場面では、大きな声を出したり、その場で座ったり寝転がったりして怒る様子が見られた。	1. 排泄後にオムツやズボンを履くことを嫌がって拒否する姿が見られ、保育者に時間をかけて説得され、履かせてもらうことがあった。 2. 寒天の感触あそびでは、興味を示しつつも触ることを嫌がっていたが、保育者や友だちの様子を見て、徐々に触られるようになった。 3. 休日は家で布パンツを履いているが、園では「いや」と言って履きたがらなかった。		
ねらい	1. 簡単な着脱を自分でしようとする 2. 思いやしてほしいことを簡単な言葉で表現する	1. 保育者と一緒に楽しみながら着脱を行う 2. 保育者や友だちのしていることに興味を持ち、まねして遊ぼうとする		
内容	1. 保育者に見守られたり手伝ってもらいながら、ズボンの着脱を自分でやり、達成感を味わう。 2. 保育者の仲立ちのもと、友だちと玩具をやり取りする中で、「かして」「どうぞ」「あとでね」といった簡単な言葉で自分の思いを伝える。	1. 信頼する保育者に甘えを受け止めてもらったり、難しい部分を手伝ってもらいながら、オムツやズボンを履く。 2. 保育者や友だちと一緒に、園庭で水や泥に触れて遊び、感触を楽しむ。		
環境構成 配慮 援助	1. 安定した手作りのベンチや床に座りながら、安全に着脱できるよう配慮し、本児の意欲を尊重しながら見守る中で、必要に応じてズボンを履きやすいよう整えて置いたり、苦戦している部分をさりげなく援助する。最後までできた姿を大いに認め、「頑張ったね」と声をかけ、次につなげる。 2. 保育者と一緒に遊びながら、玩具のやり取りを行い、「これ貸して」「どうぞ」といった簡単な言葉で思いを表現する見本を示す。子ども同士の様子を見て、とっさに言葉が出ないときは、「貸して一緒に聞いてみようか」「あとでねって伝えてみよう」と言葉を補いながら仲立ちし、本児なりに思いを表現できたときは、「言えたね」と認め、自信につなげる。	1. 解放感からオムツやズボンを履きたがらないときは、本児の気持ちに寄り添いながら、「お腹が冷えるから履こうね」と必要性を伝えたり、「お手伝いするよ」と優しく誘う。甘えを受け止めつつ援助し、自分でできそうな部分はさりげなく手を離して見守り、「履けたね」と大いに認め、できた喜びや達成感を感じられるようにする。 2. 泥あそび用の玩具や遊ぶスペースを十分に確保し、ゆったりと遊べる環境を整える。泥を触ることを嫌がる場合は無理強いをせず、周りの様子を見られるようにし、保育者が泥団子を作ったり、水を流して遊ぶ姿を見せることで興味を引き出したり、小さなバケツや容器に水や泥を入れて、指先で触ったりこぼして遊ぶ楽しさを感じられるようにする。		
食事	・苦手な食材を嫌がるときは、一緒ににおいをかいでみたり、保育者が食べて見せながら味や食感を伝え、本児が少しずつ「食べてみようかな」という気持ちを持てるようにする。 ・姿勢が崩れているときは、「前を見て食べようね」と優しく伝えつつ椅子の位置を調整し、前を向いて食べられた姿を大いに認め、自信につなげる。	・片手が机の上に出ていないときは、「手を机の上に出そうね」「器を持とうね」と声をかけながら、さりげなく手を添えて食べやすくするよう援助する。 ・皿に食材が残っている場合は、「一緒に集めようか」「お手伝いしようか」と提案し、本児の後ろから手を添えて援助しながら、「全部食べられたね」と声をかけ、最後まできれいに食べられた喜びを感じられるようにする。		
家庭との連携	3. 「○○したかったんだね」と本児の気持ちを言葉にして受け止めて、落ち着いて必要な行動に移れるよう援助するとともに、園と家庭で様子を伝え合い、声かけや対応を統一しながら、一貫した関わりを行う。 ・自分でズボンの着脱を行う姿を伝え、家庭でもその姿を大切にもらえるように働きかけながら、意欲を育む。	3. 「お家でパンツを履いてるんだね」「お兄ちゃんとおそろいがかっこいいね」と伝えながら、園でも履く意欲が高まるようにする。 ・持ち物の名前を確認し、記名がなかったり消えかけているときは、改めて書いてもらうよう丁寧に伝える。		
評価・反省	1. 落ち着いて自分で取り組み、難しい部分では、そばにいる保育者に助けを求める姿も見られた。衣服の着脱の機会が増える時期のため、時間に余裕を持たせて見守りながら、意欲を育んでいく。 2. 保育者の仲立ちで、「かして」「ちょうだい」といった言葉で気持ちを表現できた。本児の希望が通らない場面では、納得いかず怒ることもあるが、その気持ちに寄り添いつつ、相手にも思いがあることを丁寧に伝えていく。	1. 布パンツで過ごすようになり、履くことを嫌がる姿は見られなくなった。着脱を手伝ってほしいときは、気持ちを受け止めながら、焦らずに自立を促していく。 2. 泥に触ることに抵抗がなくなり、保育者や友だちと一緒に水を流したり、スコップや手で柔らかなった地面を叩いたり掘ったりして楽しんでいた。来月から水遊びに加え、寒天や粘土、氷など、様々な素材を使った感触あそびも取り入れていく。		

無料版:2名分
↓
有料版の
"おまもりプラス"
は12名分が
閲覧&DL可能!

子どもの姿の1, 2は『ねらい/内容/環境構成・配慮・援助/評価・反省』、3は『家庭との連携』と連動しています。

敬称と性別表記:ウェブサイトに当社方針を記載しております。

ほいくのおまもり **Plus!**

ダウンロードのお礼とおまもりプラスについて

この度は個人案をダウンロードいただき、ありがとうございます！

ほいくのおまもりプラスでは、**性別／タイプ別／月齢別の12名分の個人案（0,1,2歳児）**をご用意しています。更に・・・

- **無料版の2倍の月案文例**
- 丸1ヶ月分の月～金の全ての週案
- 毎月45個の製作型紙
- 毎月2つのスケッチブックシアター
- その他、会員だけのコンテンツ

これだけ揃って、**月額980円+税**の大特価！気になる人は、以下からおまもりプラスのサービスを確かめてみてくださいね。



文例ご利用時の注意事項

- 提供される文例は、一般的なケースを想定して作成されています。ご自身の具体的な状況やニーズに合わせて適宜修正を加えてご利用ください。
- 文例の利用によって生じたいかなる結果についても、当サービスは責任を負いかねます。自己責任においてご使用ください。
- 文例は参考としてのみご利用いただき、直接のコピー＆ペーストではなく、ご自身の言葉で表現を加えることをお勧めします。
- 法的な文書や重要な契約に関する文面は、専門家のアドバイスを受けて作成することをお勧めします。
- 文例の著作権は当サービスに帰属しています。無断での再配布や商用利用はご遠慮ください。